
SHOW (DATE, DOC) [シンボルのリスト , SMPL, FREQ, ALL, EQUATION,
LIST, MATRIX, MODEL, PROC, SCALAR, SERIES] ;

機能:

SHOW は特定のシンボル, あるいは一組のシンボルの情報を表示します.

使用法:

SHOW はシンボルや, どの様に保存されているかについての情報を得るために対話型セッション中にいつでも用いても構いません. シンボル名やクラス名は SHOW コマンドの引数として自由に混ぜることが出来ます. クラスは: EQUATION, LISTMATRIX, PROC, SCALAR そして SERIES です. クラス名を書くとそのクラスに属する全てのシンボルをリストします. キーワード SMPL と FREQ は, 各々の現在のセッティングを表示し, キーワード ALL は全てのシンボルを新しく作られた順に表示します. クラス名の他にない一意な略称は許されます.

SHOW LIST; ? 全てのリスト名を示す

SHOW リスト名 ; ? 特定のリストの全てのメンバーについての情報を示す

or SHOW PROC
SHOW ブロック名

は前に定義したけれど, それに引き渡す引数の数や順番を覚えていないプロシジャーの一つを呼びたいときに使うといいでしょう.

SHOW 自身は TSP の内部アレー次元をリストします. 非常に大きな問題がある場合には, 役に立ちます.

オプション:

DATE/NODATE は別の行に修正された最後の日付をプリントします (変数が DOC コマンドで作成された文書を持っている場合)

DOC/NODOC は別の行に文書をプリントします. DOC がオフの時, 現在の行の最後にフィットする文書の一部をプリントします.

アウトプット:

クラス	情報
EQUATION	名前, タイプ (式, または恒等式)
LIST	名前, メンバーの数
MATRIX	名前, 次元, タイプ
MODEL	名前
PROC	名前, 正式な引数
SCALAR	名前, タイプ, 値
SERIES	名前, 観測値数, 開始期 - 終了期, 期種

例:

次の TSP コマンドが与えられたとします:

SHOW

```
SMPL 1,10; TREND T; T2=T*T; OLSQ T2 C T;
```

SHOW によって次の結果が得られます:

5? SHOW SERIES

Class	Name	Description
-----	-----	-----
SERIES	@RES	10 obs. from 1-10, no frequency
	@FIT	10 obs. from 1-10, no frequency
	T2	10 obs. from 1-10, no frequency
	T	10 obs. from 1-10, no frequency

6? SHOW MATRIX

Class	Name	Description
-----	-----	-----
MATRIX	@VCOV	2x2 symmetric
	@RES	2x1 general
	@COEF	2x1 general
	@SMPL	vector, length 2